

平成 21 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18520277

研究課題名（和文） アリストテレス『天界論』および『生成消滅論』のシリア語における  
伝承の文献学的研究研究課題名（英文） Philological study of the Tradition of Aristotle's *De caelo* and  
*De generatione et corruptione* in Syriac

研究代表者

高橋 英海（TAKAHASHI HIDEMI）

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：20349228

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：西洋古典学、文献学、哲学、シリア学

## 1. 研究計画の概要

アリストテレス『天界論』および『生成消滅論』のシリア語による伝承について、その具体的な伝承経路およびギリシア語・アラビア語等による伝承との関係を解明する。特に、バルヘブラエウス著『英知の精華』天界論編および生成消滅論編の校訂・翻訳（英訳）を行い、これに詳細な註解を加える。本研究はまたより広い範囲でギリシア哲学・科学のシリア語における伝承の研究および日本におけるシリア学の発展に寄与することを目的とするものでもある。

## 2. 研究の進捗状況

バルヘブラエウス著『英知の精華』天界論編および生成消滅論編の校訂・翻訳作業を主要写本（フィレンツェ本、ロンドン本、ヴァティカン本）を用いて行ってきた。同時に、関連するギリシア語・アラビア語等の文献との比較を行い、関係の解明を行ってきた。その結果、バルヘブラエウスが天界論編・生成消滅論編の執筆に当たっても、イブン・シーナー『治癒の書』やダマスカスのニコラオス『アリストテレス哲学概要』シリア語訳の他にアブー・アル＝バラカートやファフル＝アッ＝ディーン・アッ＝ラージーらの著作を利用したことなどが分かった。これら新たに得られた知見の一部については昨年行われた国際学会で発表した。

## 3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

（理由）当初目的としたバルヘブラエウス著『英知の精華』天界論編・生成消滅論編の校訂・翻訳・註解の 2009 年度ないし 2010 年度中の刊行を達成できる見込みである。

## 4. 今後の研究の推進方策

バルヘブラエウス著『英知の精華』天界論編および生成消滅論編の校訂・翻訳・註解執筆の作業を 2009 年度中の作業終了、Aristoteles Semitico-Latinus 叢書の一巻としての刊行に向けて継続する。

## 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 5 件）

Hidemi Takahashi, “Fakhr al-D n al-R z , Qazw n and Bar Shakk ”, *The Harp*, vol. 19 (2006), p. 365-379 (査読なし)

高橋英海、「シリア語からアラビア語、そしてアラビア語からシリア語へ」、*東洋文化*、87号（2007年）、1-21頁（査読なし）

〔学会発表〕（計 5 件）

Hidemi Takahashi, “Translation and Reception of Secular Greek Learning in Syriac”, *ESF Exploratory Workshop on Hellenism: Alien or Germane Wisdom?*, 2007年 11月, Central European University,

Budapest

Hidemi Takahashi, “ Translation and Cultural Identity: the Case of Translations into and from Syriac ”, Symposium on “ Popular Memory and the Formation of Identities: Lebanon as a Study Case ”, 2008 年 3 月, Lebanese American University, Beirut.

Hidemi Takahashi, “ Barhebraeus, *Butyrum sapientiae*, De Caelo: First Soundings ”, Xum Symposium Syriacum, 2008 年 9 月, Seminario Diocesano San Cecilio, Granada.

〔図書〕(計 4 件)

高橋英海、「翻訳と文化間関係 シリア語とその周辺から」、岩波敦子、納富信留編著、『精神史における言語の創造力と多様性』、慶應義塾大学出版会、2008年、83-110頁